



御田祭(宮崎県美郷町)

## 特集

# 100回迎えた釧路種馬共進会

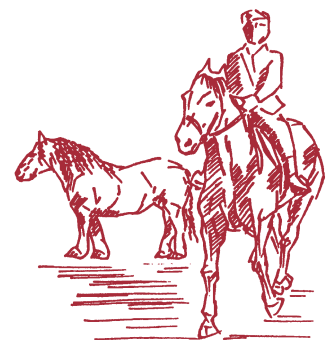
## TOPICS

### 特別展『天馬』

夏休みの馬学習は楽しい…北海道・陸別町／鳥取・大山町

## 馬事協会Information

平成19年度優良農用馬生産者を表彰  
通常総会で20年度事業計画承認  
馬知識普及公開セミナー始まる  
馬生産・繁殖技術向上へ2事業推進



# 馬事協会便り

2008年10月 第1号

## 目次

- 1 宮崎県美郷町の御田祭  
甲斐 武彦
  - 2 特集  
第100回迎えた釧路種馬共進会
  - 6 夏休み 馬学習は楽しい  
●北海道陸別町…野原 寿敏  
●鳥取県大山町…北垣 和宏
  - 9 馬の切手(中国) 田内 昂作
  - 10 特別展 天馬  
シルクロードを翔る夢の馬
- TOPICS**
- 21 往診は愛馬で  
淡路の獣医師、山崎博道さん
  - 22 与那国馬でエンデュランス挑戦  
坂下 由衣
  - 24 北海道開拓の村でどさんこ駄載実演  
白井 興一
- 上野動物園の在来馬は3馬種に  
映画「三本木農業高校、馬術部」全国公開  
帯広で人間ばんば世界大会
- 馬事協会インフォメーション**
- 12 平成19年度優良農用馬生産者を表彰
  - 13 通常総会で20年度事業計画を承認
  - 14 山梨で乗用馬生産育成技術現地研修会  
馬人工授精師資格試験に7人合格  
『馬事協会60年のあゆみ』原稿募集
  - 15 馬事知識普及公開セミナー始まる
  - 16 センター有種雄馬6頭を配置
  - 17 馬生産・繁殖技術向上へ2事業推進
  - 20 根釧乗用馬せり市場販売結果

●表紙写真／御田祭(甲斐武彦氏提供)



田植え唄に合わせて早乙女姿の女性や中学生が田植え

宮崎県東臼杵郡美郷町の田代神社の御田祭は、主祭神彦火々見命の御神霊を上円野神社からお迎えし、上の宮田から中の宮田への御神幸により行われるお田植え祭りである。

田代神社は標高897.7mの日陰山、またの名を権現山の中腹に祀られ、長元5年(1032年)に創建され、旧名を霧島神社という。

祭りの日は、田代神社の本社が権現山の中腹にあるため、上円野神社までの神霊の御降り願って、安置された御輿に乗り移られ、途中上の宮田に神幸、田植え終了後、中の宮田に祀ってある年の神に神幸される。

祭りは古来から世襲制の家柄が中心に祭事役(ミヨド・ウナリ・ノボリモチ)を務め、これに一般の参詣者も加わり、神・人・牛馬一体となって神田の整地から田



威勢のいい掛け声で田を駆け回る馬



裸馬が疾走、交互して牛が代かきを行い、御輿も入る

# 泥しぶき浴び息災祈る

## 宮崎県美郷町の御田祭 甲斐 武彦

植えを行い、参詣者の無病息災と豊作を祈願する。

この祭りには、祭馬楽の歌詞も伝えられ、古来の田楽神事がしのばれる珍しい民俗行事である。

「ヨーサヤー・ヨーサヤー」の掛け声で、田んぼの中を泥まみれの牛馬と御輿が駆け回り古来の田楽行事をしのばせる御田祭は、毎年7月の第一日曜日に宮崎県東臼杵郡美郷町西郷区の年の神神社周辺で行われる。

祭り当日は、上円野神社での神事で祭りが開幕。祭りの主舞台である年の神神社横の「中の宮田」では、若者が乗る裸馬が水田の中を泥を跳ね飛ばしながら疾走し、これと交互に牛により代かきが行われ、小学生の手作り御輿の登場となる。

やがて神田には、青年30人が担ぐ御輿が入って、神・人・牛馬が一体となって泥しぶきを上げながら練り歩く。



この泥が参拝者にかかると、その年は病にかからず、災いから免れると言われている。一方、神楽殿では、神楽の奉納も行われる。

最後に、田植え唄に合わせて早乙女姿の婦人や中学生、一般の人々による田植えを行い古式ゆかしい田植えの再現でクライマックスとなり、静かに祭りの幕を下ろす。

(かい・たけひこ 美郷町役場西郷支所地域政策課主査)

# 第100回迎えた釧路種馬共進会

## 馬産王国支えた進取の気概



①



②



③

- ① 今回の共進会全部門の中から最高位賞に選ばれた「潔遠」と、斉藤実稔さん
- ② 第100回記念共進会の開会で先駆者の偉業を讃える小瀬釧路農協連会長
- ③ 個別に入念な審査を受ける出品馬（審査委員は右から岡明男、池田国定、安部哲朗の各氏）

これぞ馬産王国——第100回記念釧路種馬共進会（釧路農協連主催、（社）日本馬事協会など協賛）は7月26日、釧路市大楽毛の釧路農協連共進会場で開かれ、入念に手入れされた100頭を超える精鋭が揃った。「馬は北海道」といわれるが、連続100回の馬共進会が開かれるのは、北海道でも例がない。乗系馬、北海道和種馬も加わり100頭を超える出品は24年ぶり。訪れた市民は記念イベントの模擬ばんえい競馬観戦やポニーや元ばんえい競走馬に乗るふれあい体験、馬車による会場内周回を楽しみ、会場は「馬と馬具の歴史」展示、農産物販売などで終日にぎわった。



④親子連れで馬車を楽しむ  
 ⑤帯広競馬場から来場した4頭のばんえい競走馬の力走  
 ⑥元ばんえい競走馬で、「帯広市職員」の資格を持つ人気者、リッキー号も交流に役

開会にあたり小瀬泰釧路農協連会長は「明治42年に最初の共進会が開催されて以来、ここに第100回を迎えることができたのは、幾多の変遷を乗り越え、馬産振興に尽力された先駆者の英知と功績によるものであり、敬意を表したい」「生産者の改良意欲をなくさないよう今後も共進会を通じて馬産の維持・振興を図りたい」と述べた。また、来賓の伊東良孝釧路市長は「今日の釧路市の産業があるのは、馬の貢献に支えられてきた。そのことを忘れてはならない」と語り、河村信幸釧路地区農協組合長会長は「かつての馬から酪農主体の複合経営化が進んでいる。しかし、馬の役割は終わったわけではない。生産者の皆さんは次回も入賞を目指しがんばって欲しい」と呼びかけた。

この日行われた共進会は乗系馬、北海道和種馬、輓系馬、同ペルシュロンの部などに分かれ、さらに年齢別など11区分で競われた。審査は岡明男独立行政法人家畜改良センター十勝牧場改

良技術専門役を審査委員長に、安部哲朗(有)釧路セントラル牧場代表、池田国定元釧路農協連生産指導部長、瀧山達男北海道和種馬保存協会前会長があたった。その結果、畜種別には乗系馬・「ファーストラン」(安部哲朗さん JAしべちゃ)、北海道和種馬・「幸福姫」(小西利行さん JA阿寒)、輓系馬・「桜姫」(武山喜八郎さん JA摩周湖)、ペルシュロン・「潔遠」(斉藤実稔さん JAくしろ丹頂)が最高位に選ばれ、さらにこの中から記念すべき大会最高位に「潔遠」(斉藤実稔さん)が輝いた。岡審査委員長は「発育良く、体躯は幅、のびがある。歴史と伝統のある釧路のペルシュロンの特徴を備えたまさに優品」と評価、「この100回共進会を折り返し点としてさらに頑張っ欲しい」と励ました。

釧路管内の家畜共進会は明治42年に始まり、馬単独の共進会は大正14年から。共進会や品評会は農家の相互研鑽、生産意欲を高める行事として盛んに開かれてきた。特に釧路は大楽毛家畜

市場が開設されると、日本三大馬市の一つに数えられ、発展した。北海道開拓が進むにつれ農耕馬のほか炭鉱、林業、漁業、都市での輸送等にあたり、国策で軍馬の振興が図られるようになった。軍馬向けに創出された「日本釧路種」「奏上釧路種」がそれで、その馬産振興の指導者の一人は神八三郎氏。皇室の精神的な支援が背景にあったという。

### 重なる過酷な試練 …釧路農業の沿革

釧路の農業への挑戦は明治17、8年の鳥取士族の移住と、同22年に屯田兵制度で入植した諸藩の士族により実質始まった(釧路農協連「四十年誌」、平成元年3月)。

釧路農業の移行過程は、①普通移民時代(明治41～大正12年)②許可移民時代(大正13～昭和7年)③主畜農業転換時代(昭和8～12年)④主畜農業崩壊時代(同13～24年)⑤主畜農業再建時代(同25～35年)⑥戦後開拓時代(同20～46年)⑦経営規模

拡大時代(同36~40年)…など9期にわたる。

この中で農業の本格的開発につながるのは農民による開拓入植が始まる①普通移民時代からといわれる。それ以前は国有未開発地の払い下げであり、大規模・粗放的な馬の周年放牧方式が出現、資本家の利権の対象にもなった。零細な農民に対する間接的な保護も加味された①、②、③と時代を経るにしたがって政策は改善の方向をたどる。とはいえ、連年の冷害、水害に経済恐慌も重なり、家畜の入らない略奪的な農業は行き詰まり離農と荒廃地を出す結果となった。この反省から乳牛を主体とする主畜農業方式の③に改められた。だが、時代は日中戦争に次いで太平洋戦争に突入した。牧草地、労働力不足等から酪農は成長せず「畑作放牧酪農」というべき“変形農業”に転落した。

苦難は大戦後も続く。食糧の増産と離農者、復員軍人らの帰農促進策として緊急開拓事業が始まった。しかし、入植者の農業未経験、劣悪な立地条件が重なり、成果は上がらず離農者が続出、昭和47年3月末の農家の定着率は44%にとどまった。

釧路は亜寒帯の気候で7、8月は月の半分以上が海霧におおわれ、稲は育たず野菜もダイコン、ハクサイなど極めて限られる。広大な草資源を生かした馬産、酪農が活路を開く。草地酪農の規模拡大が本格化するのには、農業基本法が施行された昭和36年を迎えてからだった。とはいえ酪農の規模拡大時代の幕開けは、同時に機械化と自動車の普及により馬関連産業の衰退時代の到来でもあった。

**草資源を生かす  
…馬産地の形成**

話は前後するが、釧路管内に馬が入

ったのは寛政12(1800)年、南部藩から警備と商人等の物資輸送のため各駅<sup>えきてい</sup>に官馬が配置された。明治初期から10年代は採掘した硫黄、海産物等の運搬に道内各地から優良な北海道和種馬(ドサンコ)が導入され、後に釧路馬の基礎になった。

政府の馬産奨励策と北海道開拓による馬

の需要増があり、管内の馬の飼養頭数は明治10(1877)年467頭が同30年には5256頭に急増している。在来馬の用途は専ら交通運搬だったが、やがて農民の開拓入植が本格化すると、農耕用、都市・産業用馬、軍馬と用途は広がり、引っ張る力とスピードが要求され、改良が進められる。

これに拍車をかけたのが日清、日露戦争だった。明治34年軍馬補充部釧路支部が白糠に、同44年に十勝種畜牧場釧路種付所が設置された。改良馬150万頭生産を目指した馬匹改良計画が打ち出された。

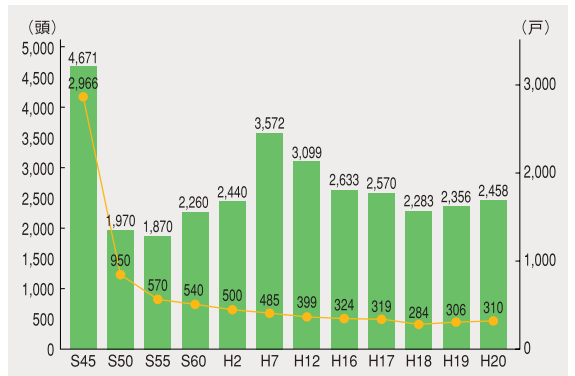
国家事業として軍用馬の買い入れが始まったことに呼応して、同39年には釧路国産牛馬組合が発足(組合員656人)、生産者が団結して馬産振興事業を進める体制が固まった。その決意を示した

**釧路の馬産100年史**

年次	主な馬産の推移	政治・社会の動き
明治2年		新政府、札幌に開拓使を設置
14年		釧路国に佐賀農工移民移住
17年	漁業者が海岸地に牧場開設	鳥取県土族移住
27年		日清戦争始まる
28年	農民の入植本格化。農耕馬生産始まる	
34年		軍馬補充部釧路支部設置
		国による優良軍用馬の買い上げ始まる
37年		日露戦争始まる
39年	釧路国産牛馬組合設立 神八三郎、組合長に就任し馬産振興	馬政局設置、馬匹改良計画
41年		軍馬補充部川上支部を標茶に設置
42年	第1回釧路種馬共進会開催	
44年	大楽毛家畜市場開設	炭鉱業、林業で運搬馬の需要が急増
大正4年		畜産共進会の余興で鞍馬始まる
5年		馬政局、国有種牡馬供用方針
昭和元年	釧路産馬方針が全国の範例に	
7年	「日本釧路種」創出発表	
13年	昭和天皇巡幸、「泰上釧路種」発表 馬の人工授精が積極化	
16年		太平洋戦争始まる
18年	農業、畜産団体も戦時統合	旧満州方面への軍馬配備盛んに
20年	「優良種牡馬疎開計画」で内陸強制移住	ボンダム宣言受託、終戦
21年	釧路種馬1000頭共進会開催	馬需要は軍馬から農業用に転換
22年		旭川、岩見沢でばんえい競馬始まる
23年	農業会解散、地区連結で釧路農協連設立	
24年	農協連有種雄馬を導入、貸付始まる	
25年	産馬性能維持へ独自に種馬登録事業	ばんえい競馬、帯広、北見加わり4市で開催
27年	釧路種馬1000頭共進会開催	
29年	昭和天皇、大楽毛市場で馬を天覧	
32年	フランスから種雄馬を輸入、改良増殖 馬産業の中心は、ばんえい競馬用馬へ	馬の飼養頭数減少へ(30年代以降) 肉用馬の需要増加(40年代以降)
49年	大楽毛家畜市場が現在地へ移転 肉用馬の生産再評価される	ばんえい競馬、黄金時代(50年代~)
62年	馬の生産頭数は再び増加へ	
平成元年	馬の需要多様化へ ホーストレーニング、観光牧場用乗馬増加	バブル経済崩壊、競馬売上減少へ ばんえい競馬は赤字経営に(11年度~)
19年		ばんえい競馬、帯広単独開催に
20年	第100回釧路種馬共進会開催	

(「40年史」(釧路農協連)、「馬産王国・釧路」(釧路新書)、「釧路の写真集」(釧路支庁)等から作成)

**馬の飼養頭数及び戸数の推移(釧路支庁管内)**



(資料 S45~H2:農林水産省「北海道農林水産統計年報」、H7~H20:釧路支庁農務課調べ)

のが明治42年10月15日から5日間通して行われた第1回家畜共進会。馬38頭のほか牛、豚、家禽、家畜飼料まで出品され、農業総合共進会の趣があった。馬単独の管内共進会は大正14年の第1回釧路二才駒共進会で66頭出陳された。

**偉業の継承を合言葉に  
…馬産の推移と指導者**

釧路の馬産地の形成と成立には国の積極的な馬産奨励施策と開拓による馬需要の増加、生産者をまとめた組織

である釧路国産牛馬組合の存在、そして皇室の精神的な支援、強い信念と卓越した指導者の存在があった。農協連の記念誌には毎回のように登場するのが神八三郎翁を中心とする先人の顕彰で、「馬産事業はこれらの偉業の継承によって始まった」とある。一言でいえば「釧路の農業の存立は主畜経営によるしかなく、それも馬産によらなければならぬ」。これを決定的にしたのは昭和7年摂政宮行幸10周年記念事業として行われた軍用馬の改良新種「日本釧路種」の発表、さらに6年後の13年昭和天皇巡幸時に改良馬「奏上釧路種」を発表したことだった。日本人の体型に合わせた中型で牽引力のあるこの馬は、日中戦争の開戦で大楽毛市場の軍馬買い上げは急増した。

第1次大戦後、昭和恐慌と連年の冷害・凶作で農民はあえいでいた。馬の市場価格が下落する中、「時代に合った商品性の高い改良馬」の要求があった。この改良種はその要求にこたえるもので、勢い馬市は活性化し、馬の共進会は戦時中も休まず開かれた。

しかし、その活況も終戦で一変する。農業生産資材、人手も不足し、飢えと疲弊はきわみにあった。終戦直後の混乱期、馬は一転して無用の家畜と白眼視され、全国で食糧としてと殺された。そのなかで神翁は農村の再建と食糧の増産を訴え、行動を起こす。そのためには産業用馬の必要を説き、昭和21年に天皇を迎え、釧路種馬1000頭大共進会を開いた。世界に例を見ないこの1000頭大共進会は同27年にも開かれ、気を吐いた。

### 現代の馬産を支える群像

現在、管内の馬飼養個数は310戸、2,458頭と往時の1割強に減り、生産者の高齢化が進んでいる。しかし、釧路の

特徴は、ばんえい競馬競走用など農用馬が多いのが特徴で、北海道内の生産の約3割を占める。

ばんえい競馬の最高峰、ばんえい記念競走(4歳以上、オープン)、ばんえいオークス(3歳牝馬)出走馬の生産者には稲場洋二、松井紀行、山根清、佐々木正人、山田恵理実、武山喜八郎、松野貢、加藤崇、森昭一、山田義宣、坂井健一の各氏が顔を並べ、層は厚い。また、生産・経営に優れ日本馬事協会の生産技術賞受賞者に長村豊司、阪口栄造、佐々木正吉、松野宏の各氏が釧路馬事振興連合会(会員130人)の中核となり、産地の底力を支えている。

元青年部会長の稲場洋二さん(51)は繁殖重種を中心にハフリンガーなど馬30頭を飼育する専業で、ばんえい競走馬の馬主でもある。「ばんえいは世界に誇る、伝統のある馬文化だ。なんとしても守って行きたい」。祖父の代から3代続く馬好きは「共進会を通じて互いに切磋琢磨するのは、励みになる」という。

現在、青年部会長を担う福西範さん(44)はペルシュロンと半血の重種を常時22~23頭飼育するとともにハウス栽培のハウレンソウ1haの複合経営を行う。ハウレンソウは夏場の端境期に札幌から遠く福岡まで出荷する。釧路市近郊でこうした「馬プラス野菜生産」という経営スタイルを追求するのも新しい動きだ。「親父よりおれのほうが馬が好き。ばんえいだけでなく、(家畜としての利活用として)馬肉文化に期待している」と地元での肥育も視野においている。

根釧乗用馬生産育成振興会(菅原



⑦

⑦ 釧路種馬二千頭共進会の全景(昭和27年9月)  
⑧ 大楽毛を訪問され、神翁にねぎらいの言葉をかけられる天皇陛下(昭和29年8月)



⑧

勝征会長)の重鎮として乗用馬生産に熱意を燃やす(有)釧路セントラル牧場代表の安部哲朗さん(84)は「いつかは五輪に通用する馬を生産したい」と熱い思いを語る口調は、青年のようにさわやかだ。釧路セントラル牧場といえばエイプリル号の生産牧場で知られる。平成9年に富士グランプリホースショーで大障害に初出場優勝、さらに全日本障害飛越馬術大会内国産S&H制覇、同10年の神奈川県国体2種目優勝…で話題をさらった。

現在、ドイツ産のウエストファーレン、ハノーバーを種牡馬とした交配を中心に30頭を飼育する一方、乗馬クラブの預託馬、社台グループのサラブレッドの乳母馬も引き受け、重宝されている。乗用馬、中でも内国産馬は需要に対し生産が少なく、追い風が吹いているといわれるが「日本は調教の分野が遅れている」とオーストラリアから専門家を招いてその技術を磨いてきた。「健康の秘訣は乗馬」がモットーだったが、さすがに高齢なので最近ではめったに乗ることはないという。しかし、馬市への周到な対応に加え、頼まれると今回の釧路種馬共進会など共進会の審査員の重責を担う現役だ。乗用馬生産の先駆者にかかる周囲の期待と信頼は厚い。

# 青年部が小学生に馬の勉強会

北海道足寄郡陸別町

野原 寿敏



青年獣医師の話を楽しく聞く参加者

かつて地元の農林業で活躍した馬のことを忘れず、馬に関心を持ってもらい、ふれあいを大切にしたい—馬産が盛んな北海道足寄郡陸別町馬産振興協議会青年部(佐藤章彦部長、15人)は、8月27日、陸別町小学校6年生を対象にゆとり時間を活用し馬の歴史の勉強と乗馬を手ほどきました。十勝農業共済組合の土屋、石原両獣医師が講師となり、馬の種類や昔地域でどのように活用されてきたか、質疑を含め熱心に聞いた後、ポニー親子を観賞、馬の心音を聞いたり、巨大な重種馬やピントホース、ドサンコ(北海道和種馬)に乗り、最後に重種馬と6年生全員の綱引きを行いました。結果は馬が勝ち、「馬力」の底力を見せ付けました。小学生の感想は「すごく大きい」「かわいい」「また乗馬がしたい」など馬への魅力を感じてもらいました。

総合的な学習時間、ゆとり時間活動を使った馬の勉強会は、平成16年から始まりました。陸別町の馬の飼養戸数は16戸、繁殖用交雑種を中心にポニーを含め190頭(平

成20年6月現在)となっています。しかし、近年は馬の価格の低迷や後継者不足などから馬の飼養頭数は年々減少する一方、子供たちが馬とふれあう機会が少なくなっています。前後しますが、陸別町では昭和55年、関係団体が協力し馬産振興協議会を設立、当時数百万円を投じ基礎雌馬を導入して既存馬の保存、ばんえい馬生産、肉用馬生産、林間放牧など未利用地の有効活用を進めてきました。それでも生産者の高齢化が進み、「このままでは馬の生産者の減少は避けられない」と後継者が中心となって平成5年6月、10人が参加して陸別町馬産振興協議会青年部を立ち上げました。活動内容は高齢者の庭先に馬を乗せる馬乗降台設置や市場での馬の上場の手伝い、馬に関する勉強会・ボランティアなど。現在、青年部は生産者、獣医師15人が活動しています。

青年部は小学生だけでなく大学生を対象とした交流会も平成13年から行っています。町内で飼養されている馬と馬産農家に加え、町の資源(自然・青空・星・文化・歴史・施設・町並み・町民性)を仲立ちとにして町外、特に内地の人たちとの交流を行い、それを通じて青年部の視野を広め、柔軟な感性を養い、新時代の農業を目指したいと考えています。町を訪れ、滞在した学生たちの評判は非常に良く、再度訪れる人が多くいます。

(のはら・ひさとし 陸別町馬産振興協議会青年部事務局)



6年生全員と重種馬との綱引きは馬が勝ち、まさに「馬力」を見せ付けた



初めて乗馬を体験する子ども



大学生による排卵検査の様子(3月)



## 馬をテーマに 夏休み宿題応援

鳥取・大山の乗馬センター

北垣 和宏

中国地方最高峰<sup>だいせん</sup>大山は観光・リゾート地としても西の軽井沢といわれるほど四季を通じて多くの観光客で賑わいます。大山の自然を生かした体験型観光施設も多く、大山乗馬センターも乗馬クラブでありながら、年間2万人を超える観光客で多くの方々の笑顔に接することができます。そうした中、大山の体験型観光施設を中心に、それぞれの施設の特徴を生かしたイベントをできないかという議論が始まり、「大山 夏休み宿題応援リゾート」と銘打って、夏休みの宿題の「自由研究」を大山での体験を通してしてもらおうということになりました。

大山乗馬センターには夏休み中約1か月半という期間に少なくとも2000人以上の子供たちが馬に乗りに来てくれますが、乗馬体験だけでは、感想文を書くくらいがいいところでしょう。せっかくならその子供たちに馬のことを知ってもらい、自由研究のテーマにしてもらえれば、子供たち



には宿題の材料が、私どもには集客イベントができ、一挙両得だと考え参加することになりました。しかし、それだけの人数に馬のことを簡単に知ってもらうことは容易ではありません。よい方法はないかとあれこれ思案していたところ、たまたま日本馬事協会が貸し出している馬の展示パネルや配布用ブックレットがあることを知り、すぐさま活用することになりました。

さて夏休みに入り、展示パネルを設置したら子供たちがすぐさま興味を示してくれたかということ、実のところほとんど見てくれませんでした。子供たちは余程馬に興味を示している子でない限り、活字を読もうとしてくれないのです。(活字離れでしょうか) 誤算でした。そこで知識から体験にという順ではなく、まずは馬に接してもらい、乗ってもらう中で徐々に興味を引く会話をして知識を深めるために展示パネル見ってもらうことにしたのです。馬に乗る子供

たちは最初の反応として、体の大きな動物に触れたり背中に乗るという行為に恐怖を感じてしまいます。しかし、簡単な操作で大きな動物を自在に操れることを知ると、安心感からか楽しそうな表情に変わり、次第にいろいろな興味を示すようになります。

大山乗馬センターではサラブレッド、アングロアラブを主体に隠岐馬、ハーフリンガー、道産子(ドサンコ、北海道和種馬)とさまざまな種類の馬がいます。それぞれ大きさや形が違うので、子供たちも皆不思議そうに見比べます(一番人気は元競走馬のサラブレッド。競走馬に乗れたことが自慢になるそうです。さらに乗り



夏休みの自由研究に馬のパネルやブックレットも一役

子供たちの1番人気は元競走馬のサラブレッド



馬に触れ、乗ることで強い印象に



心地が良いというのも評判です)また、馬の名前も子供たちが興味を引くような名前をつけているので、印象に残りやすいようです。(1月9日に買い入れた馬は、いち・きゅうで「一休」といった具合)それぞれ品種や名前などをじょうだん半分に説明していくと、子供たちは目を輝かせて聞き入り、得意になって親にも話していきます。そして、「馬の足は人間でいえば中指だよ」とか「馬の靴は鉄でできているんだよ」といった話をするとうるさくにも似た表情で興味を示してくれます。そして、展示パネルの紹介をし、パネルを順に見た後ブックレットをプレゼントします。すると皆、夏休みの自由研究にしようと、我先に手にしていきました。ブックレットは300部用意していましたが、すぐになくなってしまふほど効果がありました。

この企画は子供たちの興味を引く手段としても、乗馬普及活動の原点に立ち返ることができたという意味でも意義がありました。何よりも乗ることの楽しさ、乗った馬について知る楽しさを笑顔で返してくれる子供が非常に多かったことがとてもうれしく、今後の励みになりました。また、強く印象に残ったことは、子供より大人の世代に馬の楽しさ、乗馬の良さを認識してもらうことが重要なのではないかとのことでした。実際展示パネルを熱心に読むのは大人のほうが多かったかもしれません。動物が身近に居らず、動物と接したことが無い世代が親になり、馬だけでなく動物がどういふものなのか知らない人が近年多くなってきています。親の中には馬は怖いと子供に言い聞かせている方もよく見かけられますが、親が馬を怖い動物と教えられた子供は、馬に触ることも乗ることも嫌がる傾向にあるのも事実です。何も知らない子供にただ「怖い」と教えるのは明らかに無知からくる間違いです。

最低限のマナーを知り、馬について理解があれば、もっと馬が身近で人の役に立つ存在だと認識でき、怖さを強調することはないはずです。

馬の良さを知らず、乗馬は敷居が高く、馬は大きいので危険といった先入観を持つ大人が、子の世代にリスクばかり伝えるといった負の連鎖をどこかで断ち切らねば、馬は永久に日本では普及しないように思います。そういった意味では、こういった展示パネルの貸し出しなど非常に良い手段だったように思われます。今後写真のほかイラストも取り入れた子供たちにも見てもらいやすいものや、大人でも楽しめるクイズなどのゲーム感覚で読み進んでいくことができる内容のものなどが追加されれば、もっと皆さんに興味を持っていただくことができるような気がします。

馬術競技は伝統あるオリンピック種目でありながら、日本ではテレビ中継もされない状況を我々馬関係者はもっと危機感をもって考える時期にきていると思います。気軽に馬と親しめる施設をどんどん増やし、馬に興味を持ってもらいやすいようなプログラムを馬関係者が真剣に考えていけば、まだまだ馬への関心を集めることが可能だと思いますし、次の世代を担う子供たちに馬が親しみやすいものだということが浸透していけば、馬を扱う方にも後々色々な意味で利益として還ってくるのではないのでしょうか。

(きたがき・かずひろ 大山乗馬センター代表取締役)

# 馬の切手

田内 昂作  
(馬の切手収集家)

## 中国

世界四大文明発祥の地、中国は世界の馬の古里であり、馬具や馬車、シルクロードを通じた馬文化の伝播に大きな影響を与えた。切手に描かれた秦始皇帝の兵馬俑、三国志、水滸伝、敦煌などロマンとスペクタクルの世界を垣間見せる。歴史と文化の大国は、奥が深い。馬の飼育頭数は740万頭で世界第2位。ロバ、ラバも多い。



秦始皇帝の陵兵馬俑(1983年発行)  
世界遺産に登録された始皇陵にあり、等身大の多数の兵馬俑が発見された



始皇帝陵の副葬品(1990年発行)  
儀仗用馬車などは豪華なものが多かった



敦煌(1988年発行)  
莫高窟壁画や彩色塑像、古文書の発見で脚光を浴びている



三国志 2次(1990年発行)  
劉備、関羽、張飛など豪傑・勇士が活躍する講談の世界



文化大革命中の出土文物  
(1973年発行)



国際婦人デー(1975年発行)



紅軍2万5千里長征20周年(1955年発行)  
革命家毛沢東をたたえる



水滸伝(1991年発行)  
108人の豪傑が活躍する4大奇書の一つ



少数民族伝統スポーツ  
(2003年発行)



奔馬(1978年発行) 徐悲鴻画

昭凌六駿(2001年発行)



①



②



④

⑦



上から②ペガサス装飾付ブローチ(金製、アメリカ、メトロポリタン美術館蔵、ギリシア、紀元前340～320年頃)①赤絵式クラテル(深鉢、イタリア、アーグロ・ファリスコ国立博物館蔵、陶製、イタリア、紀元前4世紀頃)④化粧皿[有翼馬文](片岩製、東京・個人蔵、パキスタン、1世紀頃)⑦鍍金馬【ときんば】(銅造鍍金、中国、茂陵博物館蔵、中国、前漢時代中期＝紀元前2世紀)⑩重要文化財／絵因果経【えいんがきょう】(紙本著色、東京、根津美術館蔵、鎌倉時代・建長6年)

特別展

# 天馬

シルクロードを翔る夢の馬

より速く、強く、美しい一翼をもち空飛ぶ伝説の馬「天馬」。紀元前1世紀以上前に考え出され、シルクロードを通じて世界各地へ伝わった。

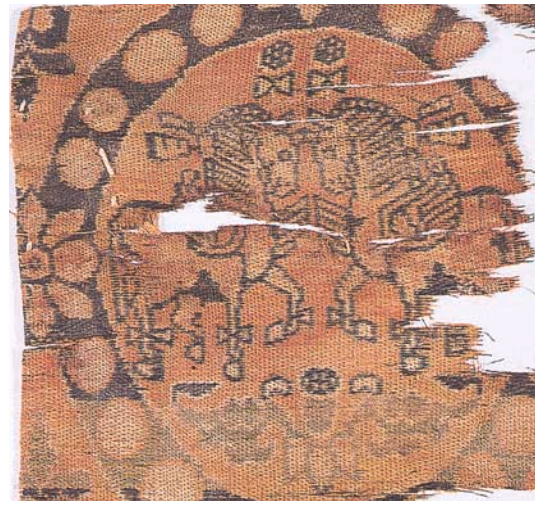
特別展 天馬～シルクロードを翔(かけ)る夢の馬～は4月5日～6月1日、奈良国立博物館で開かれた。同博物館と(財)全国競馬・畜産振興会主催、JRA日本中央競馬会、(財)馬事文化財団馬の博物館など特別協力で、日本の国宝、重文をはじめアメリカ、イタリア、中国などから考古遺品、美術品164点が出陳され、入館者を魅了した。天馬で最も有名なのはペガサスで、古代ギリシア神話に登場する聖獣の1つ。同様に古代中国にも現れ、これが悠久の時を



⑩



③ペガサス装飾付柱頭片(大理石、イタリア、フォーリ・インペリアリ博物館蔵、イタリア、紀元前1世紀)



⑤



⑤連珠対馬文錦(絹、中国・新疆ウイグル自治区博物館蔵、トルファン、7世紀)⑥国宝/四騎獅子狩文錦(錦製、奈良・法隆寺蔵、中国・唐時代=7世紀)



⑧

上から右下へ⑧棺床飾板(石造 彩色、アメリカ・個人蔵、中国・北周～隋時代=6～7世紀)⑨国宝/龍首水瓶【りゅうしゅすいびょう】(鑄銅製、金鍍金、銀鍍金、東京国立博物館蔵、飛鳥時代=7世紀)⑩重要文化財/一字金輪曼荼羅【いちじさんりんまんだら】(絹本着色、平安時代=12世紀、奈良国立博物館蔵)

経て東進し飛鳥時代から鎌倉時代にシルクロード東の終着地、日本へ到達した。法隆寺に伝わる四騎獅子狩文錦や密教絵に取り込まれた天馬、聖徳太子や弘法大師の逸話に現れる空飛ぶ馬、中国の神仙世界に息づく翼馬なども紹介された。

特別展の会期中は馬の博物館、JRAなどによる公開講座、特別連続講座、「天馬」連続企画「ターフを翔る天馬たち」～天皇賞(春)・東京優駿(日本ダービー)と銘打ち、両レースを制したディープインパクトやメイショウサムソンの馬像を展示したほか、競馬の歴史や昨年の重賞レース・トピック的なレースを映像で展示、競馬ファンにサービスした。(写真はいずれも奈良国立博物館提供)



⑨



⑩

# 平成19年度 優良農用馬生産者を表彰

——第40回ばんえい記念はトモエパワーが2連覇

社団法人日本馬事協会（赤保谷明正会長）は、地方競馬全国協会（仲田和雄理事長）の補助を受けて平成19年度優良農用馬生産者表彰を3月23日、帯広市の北海道ホテルで行った。この表彰は農用馬生産者の生産意欲の向上と農用馬資源の確保を目的に行っており、今回で10回目。ばんえい記念（4歳以上、オープン定量、3月23日実施）と、ばんえいオークス（3歳牝馬、オープン定量、平成19年12月9日に実施）競走に出走した馬の生産者延べ20人が対象。

表彰にあたり赤保谷会長は「一時は心配されたが、関係者の懸命な努力で新生ばんえい競馬は満1年を迎えることができた。ばんえい競馬と農用馬生産は、両輪の関係にある。優れた農用馬が1頭でも多く生産されれば、それだけ魅力的な競走番組を提供できることになる」と励ました。来賓の本川一善農林水産省畜産部長は世界唯一のばんえい競馬に頑張ってもらうために、「農水省も最大限の支援を続けたい」とエールを送った。ばんえい主催者の砂川敏文帯広市長は「道内はもとより全国のばんえいファンに支えられ、応援していただいたお



優良農用馬生産者賞受賞者（ばんえい記念競走、写真は代理を含む）



優良農用馬生産者賞受賞者（ばんえいオークス競走、写真は代理を含む）



ばんえい記念競走の部代表で受賞する三井宏悦さん



第40回ばんえい記念（農林水産大臣賞典 地方競馬全国協会理事長賞）で、2着に約26秒差をつけ2連覇を果たしたトモエパワー（牡8歳、騎手西弘美、馬主酒井兼益、生産者三井樹雄）

第40回 ばんえい記念競走	十勝	三井	宏悦	帯広市川西町
	十勝	林	豊嗣	足寄郡陸別町
	十勝	安富	功	中川郡池田町
	釧路	山田	義宣	釧路市阿寒町
	釧路	稲場	洋二	釧路市阿寒町
	空知	片山	光夫	夕張郡長沼町
	宗谷	米田	貢	稚内市樺岡
	檜山	久未	代志市	檜山郡上ノ国町
	網走	大場	登喜男	北見市美園
	第32回 ばんえいオークス競走	十勝	吉仲	竹男
十勝		佐々木	七郎	足寄郡足寄町
十勝		西村	祐一	足寄郡足寄町
釧路		坂井	健一	川上郡標茶町
釧路		佐々木	正人	釧路市大楽毛
根室		宮田	光男	標津郡中標津町
網走		芝桜	高橋牧場	紋別郡滝上町
網走		細川	貞夫	北見市相内町
後志		田中	猪之助	岩内郡共和町

かけ。しかし、大きな坂や課題もあり、これからが勝負。関係者が心を一つにしてクリアしていきたい」と抱負を語った。

生産者表彰に続き祝賀会は仲田和雄地方競馬全国協会理事長の音頭で乾杯、熱闘のばんえい記念・ばんえいオークス競走のビデオが大画面に放映される中、生産者や式典参加者、ばんえい観戦ツアー参加者も交え懇談・交流が繰り広げられた。また、壇上では優勝騎手・調教師らのインタビューが行われた。

会場では馬肉を使った目玉料理として、霜降りの馬刺しをはじめ、タタキ、握り寿司、ユッケ軍艦巻き、カルパッチョ、外モモ肉のしゃぶしゃぶなどの料理が好評だった。

（左から）表彰祝賀会場でもてなされた馬肉料理。霜降り肉のお刺身／シタマ肉のユッケ軍艦巻き／ランチ肉のタタキ／ランチ肉のカルパッチョ／外モモ肉のしゃぶしゃぶ、ポン酢仕立て



## 馬の生産基盤充実強化へ

# 通常総会で20年度事業計画承認

社団法人日本馬事協会（赤保谷明正会長）は5月27日、都内で第61回通常総会を開き、平成19年度事業報告、同収支決算並びに監査報告などを承認、続いて平成20年度事業計画、同収支予算を決め、理事3人の交代を承認した。

19年度は一般会計において①乗用馬等の生産振興事業②農用馬等の生産振興事業、馬事畜産普及啓発対策③家畜改良体制整備事業を重点事業にあげ、取り組んできた。

このなかで特に農用馬は、ばんえい競馬の存廃をめぐり不安が広がったが、民間の支援による帯広単独開催で辛うじて存続が決まり、関係者の懸命な努力、ばんえい競馬ファンに支えられ健闘している。とはいえ厳しい環境が続くため20年度は地域の実態に即した農用馬生産振興策、技術指導、優良農用馬資源確保等の緊急特別対策を講じていく。

併せて特別会計により新たに大家畜生産技術向上対策事業（馬繁殖技術向上対策事業）に着手する。これは馬の人工授精の普及率を向上させるために、精液濃縮法について技術開発を行うほか、<sup>きひんたい</sup>擬牝台を活用して周年安定して精液を採取する実務者を養成するもの。また、前年度に続き人工授精師養成講座の開催、実施体制の整備（器機機材の導入支援）も行う。

乗用馬等の生産育成振興事業では優良血統雌馬または雄馬を購買（借り受けを含む）配置するほか、生産基盤強化の検討を行う。日本在来馬については馬種ごとに保存活用会議を開き、適切な対策を講じてゆく。絶滅が心配される馬種（対州馬、宮古馬、与



総会であいさつする赤保谷会長

那国馬)については施設整備、繁殖技術指導、種馬登録等の必要な施策を行う。

新たな担い手を確保するため新規事業として、馬事知識啓発公開セミナーを4か所で開く。

また、家畜改良データバンクへデータ提供を行うとともに、血統登録データを活用して近交係数、血量計算等の提供を図る。馬の登録情報等を集積管理し、各種情報を提供しているが、導入後6年経過しているため、電算システムの更新を検討する。

選出された役員は次の通り。

- 会長=赤保谷明正
- 副会長=小川諄
- 専務理事=倉澤景晴
- 常務理事=安武正秀
- 理事=穴見盛雄、伊藤政光、金谷和夫、神谷孝之、  
枳穀勝久、木下一己、草野信一、小瀬泰、  
杉野毅、鈴木重格、千葉伝、時田茂光、  
西勝海、信國卓史、松下隆之、山内正孝
- 監事=星野大清、川野洋和。

## 山梨で乗用馬生産育成技術現地研修会

(社)日本馬事協会は6月2、3日、山梨県北杜市の(財)山梨県馬事振興センターで乗用馬生産育成技術研修会を開いた。これは人工授精技術の精度を向上させることにより受胎率を高めるのが目的。宮澤清志元岐阜大学教授を講師に馬関係技術者、乗用馬生産者7人が人

工授精と発情鑑定について研修した。

山梨ではこれまで精液を採取する種雄馬がいなかったために人工授精が行われておらず、技術的なサポートが求められ、今回の研修実施となった。今後はアラブをエンデュランス用の馬候補として種付けを行う予定。

## 馬人工授精師資格試験に7人合格

(社)日本馬事協会は7月22日～8月5日、岩手県遠野市の(社)遠野市畜産振興公社遠野馬の里で平成20年度家畜(馬)人工授精講習会を行った。全国から7人が畜産概論、関係法規、家畜の育種、栄養、飼養管理、繁殖生理、生殖器解剖、種付けの理論、精子生理、人工授精、発情鑑定、精液精子検査法、家畜の審査などを受講した。講師は宮澤清志元岐阜大学教授を中心に安武正秀日本馬事協会常務理事、岩村俊春業務部長、千葉祥一遠野市畜産振興公社振興課長が当たった。

講習会受講科目ごとに修業試験が行われ、次の7人

が修業試験を受け合格証明書が交付された。

佐々木薫(千葉県船橋市、元船橋競馬場)、村上瑛摩(宮城県大郷町、えにしホースパーク)、富井進(北海道北竜町、北竜町役場)、館澤直央(岩手県金ヶ崎町、岩手県立農業大学校在学中)、太田幸一(岩手県遠野市、遠野市畜産振興公社)、藤田久仁華(茨城県桜川市、大和ホースパーク)、堀切良明(遠野市、遠野市畜産振興公社)。

なお、平成21年度は北海道河東郡音更町の(独)家畜改良センター十勝牧場を会場に実施の予定。

## 日本馬事協会辞令

### ●4月1日付

北海道事務所長・大沼孝宣(採用)／北海道事務所嘱託・高橋健(北海道事務所長)／同所嘱託・岡田和子(同所事務職)

### ●8月26日付

技術嘱託・宮澤清志(元岐阜大学応用生物科学部教授)

## 『馬事協会60年のあゆみ』原稿募集

日本馬事協会は平成21年3月、創立60周年を迎えます。これを記念して日本馬事協会「60年のあゆみ」(仮称)を発行します。つきましては、以下の要領で意見・提言・感想文を募集します。ふるってご応募ください。

### 1.テーマ 「馬、この愛すべき仲間」

—次代へ残したい馬資源、伝統、文化を考える—

現代、特に昭和の時代は馬が重用されながらも、第二次世界大戦を転機に人・馬は技術革新と経済発展の激動の波にほんろうされました。とはいえ馬が果たした役割の大きさは、計り知れません。そして今、競馬、乗馬に加え、スポーツ、レジャー、さらには治療的乗馬、災害救護活動、山岳警備など新たな役割、秘めた潜在的能力が期待されています。そこで、馬利用のあり方・期待、馬に関わった体験、本会への建設的なご提案などをお寄せください。

**2.字 数** 400字詰め原稿用紙2枚半(1000字)。  
フロッピー、E-mailで送付される場合は、ワードまたはテキストをお願いします。

**3.締め切り** 平成20年12月10日。

**4.原稿送付先** 〒104-0033 東京都中央区新川2丁目6-16  
社団法人日本馬事協会 「60年」係。  
E-mail kunio.miyazaki@bajikyo.or.jp  
掲載分には、図書カードをお送りします。ご自宅の住所、職業、電話番号をご記入ください。



## 馬事知識普及公開セミナー始まる

(社)日本馬事協会は平成20年8月19日の北海道帯広市での開催に続き、10、11月に北海道、熊本県、岩手県で馬事知識普及公開セミナーを開く。これは近年、馬に関する知識や見識を持った人材不足が心配されるため、馬産の振興を図り、ひいては馬の生産などに関わる新たな担い手を確保するのがねらい。受講対象者は馬産の関係者、馬関連事業に関心を持つ社会人、主婦、学生ら。いずれの会場もテキスト代、受講料は無料で、広く参加を呼びかけている。

8月19日、帯広市でNPO法人とかち馬文化を支える会は、日本馬事協会の委託により第1回公開セミナーを行った。同とかち馬文化を支える会は昨年度1年間をかけ、7人の講師陣が馬学テキストを執筆。本年は、このテキストをもとに3回にわたって公開セミナーを開催する。



幅広い職業、年齢層の参加で、熱気の北海道帯広のセミナー会場（講師は柏村文郎帯広畜産大学教授、写真協力：松井和實さん）

### ◆北海道会場

第1回となった今回のセミナーでは、帯広畜産大学の柏村文郎教授が「馬の感覚と行動特性」「アメリカのばん馬競技」、三宅陽一教授が「農用雌馬の最近の繁殖管理」「馬っこからもらう元気でこれからも」と題して、それぞれ2題ずつ講演。まず、第1講演者の柏村教授は、前半、馬の聴覚・視覚・嗅覚・音声と行動について実例をあげて講演。後半はアメリカの牽引競技会＝プリングコンテストをビデオ映像で紹介。日本の「ばんえい競馬」とは一風違う、2頭引きのプリング競技の迫力、珍しさに、参加者からは感嘆の声があがった。

第2講演者の三宅教授も、人工授精技術の発展や、点燈による繁殖雌馬の発情管理など、近年の繁殖技術について講演。スライドを使ってのわかりやすい説明は一般の馬愛好家にも分かりやすく好評だった。また、後半は、馬産農家へのアンケートを紹介し、馬を生産、飼育することによって馬産家が生きがいを感じ健康に生活しているという、馬好きにはうれしい統計も示された。

会場には、乗馬関係者、生産者、ばんえい競馬関係者の他、一般市民も含め、様々な職種、幅広い年齢層の人々が60人以上もつめかけた。これだけ馬への知識や関わり方の違う人々の集まった講座だけに、演者の2人の教授も、専門的な情報も興味を持って聞いてもらおうと腐心されていた。その甲斐あって専門家から一般市民まで、熱心に聞き入り、向学心の熱気が溢れた。

第2回、第3回の馬事知識普及公開セミナーの予定は以下の通り。

#### 第2回

〔開催日〕10月11日(土) 〔場所〕帯広畜産大学(予定)

〔講師及び講演内容〕持田裕之(D-Jランチ代表取締役)「馬の心理と調教」、川嶋種朗(カズホーストレーニング代表)「乗馬の基礎知識」

#### 第3回

〔開催日〕平成21年1月中旬 〔場所〕札幌市内

〔講師及び講演内容〕古林英一(北海学園大学教授)「北海道の馬と競馬の歴史」、河合正人(帯広畜産大学講師)「道産馬(どさんこ)の世界」、旋丸巴(作家)「北海道の馬文化」

なお、とかち馬文化を支える会では、この他にも、十勝管内で同様のセミナーを更にもう1回程度開催するため準備を進めている。

(北海道の項、旋丸巴)

### ◆熊本会場

〔開催日〕10月26日(日) 〔場所〕菊池郡大津町岩坂の熊本県家畜市場特設会場。

〔講師及び講演内容〕川嶋舟(東京農業大学農学部バイオセラピー学科講師)「新たな馬の利活用～治療的乗馬～」、岩村俊春(日本馬事協会業務部長)「馬の種類及び品種」「馬体各部の名称」

### ◆岩手会場

〔開催日〕11月7日(金) 〔場所〕岩手郡滝沢村滝沢のアピオ。

〔講師及び講演内容〕増井光子(よこはま動物園ズーラシア園長)「新たな馬の利活用」、末崎真澄(馬の博物館・JRA競馬博物館理事)「ウマと人間の歴史」、森達也(日本装蹄師会装蹄教育センター装蹄研究課長)。

※セミナーの問い合わせ

#### ●熊本、岩手会場

(社)日本馬事協会(〒104-0033 東京都中央区新川2丁目6-16、TEL03-3297-5626)

#### ●北海道会場

特定非営利活動法人とかち馬文化を支える会(〒080-0020 帯広市西10条南15丁目3-1、TEL0155-67-6890 火、水休み)

# 種雄馬6頭を配置

(社)日本馬事協会は、農用馬の生産振興と資質の向上を図るため、独立行政法人家畜改良センターから優秀な種雄馬6頭を借り受け、9月4日北海道、熊本の生産者団体に配置した。

## 平成20年度センター有配置種雄馬 (産地…当該とあるのは家畜改良センター十勝牧場)

馬名	品種	毛色	生年月日	体高 胸囲 (cm)	体長 管囲 (cm)	産地	血統 父母	血統 母の母	近交 係数	配置先
鐘 畔	ブル	栗	18.03.15	161 210	178 26.6	当該	槍 参 範 雪	原 毫 教 粹	1.56	北海道・ 上川生産連
蜃 文	ブル	栗	18.03.04	167 217	176 26.8	当該	ラヴリー 校 伯	ファンシュ 教 砲	0.78	熊本県・ 熊本県畜産農協
蜃 健	ブル	栗	18.04.03	160 235	186 27.2	当該	ラヴリー 権 槍	ダルタニヤン 康 天	—	北海道・ホクレン 岩見沢支所
笠 包	ブル	栗	18.04.02	171 214	182 27.6	当該	ネスター 束 影	オヌール 花 蒼	—	北海道・ 日高生産連
笠 学	ブル	栗	18.04.12	161 225	180 26.2	当該	ネスター 勉 斬	ダルタニヤン 研 砲	—	熊本県・ 熊本県畜産農協
策 熔	ペル	芦	18.03.31	172 222	187 28.0	当該	コブー 輝 頂	勝 栄 照 沼	—	北海道・ 釧路農協連



1  
鐘 畔  
(ブルトン)



2  
蜃 文



3  
蜃 健



4  
笠 包



5  
笠 学



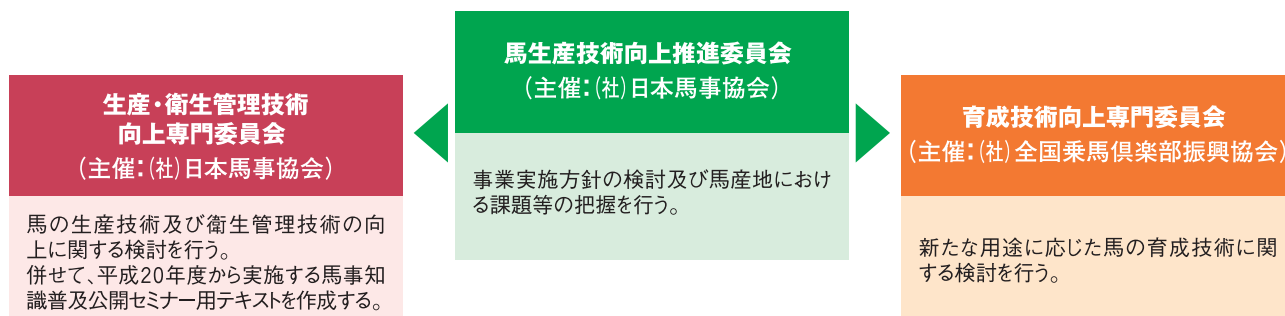
6  
策 熔  
(ペルシュロン)

# 馬生産・繁殖技術向上へ2事業推進

(社)日本馬事協会は、(財)全国競馬・畜産振興会の助成を受け、馬生産技術向上推進事業と大家畜生産技術向上対策事業(馬繁殖技術向上対策事業=新規)を進めている。

## 馬生産技術向上推進事業の概要図

### 1.馬生産技術向上推進委員会開催事業



### 2.馬生産技術向上指導事業

#### (1) 生産及び衛生管理技術向上研修会の開催

生産現場における技術指導の向上を図るため、農協職員、獣医師等を対象とした生産・衛生管理技術向上研修会を開催する。

#### (1) 育成技術向上研修会の開催

生産現場における育成技術の向上を図るため、地域の指導的生産者を対象とした用途に応じた馬のモデル育成と連携した育成技術向上研修会を開催する。

#### (2) 人工授精の普及

**ア.人工授精師の養成**  
人工授精講習会を開催する。  
**イ.人工授精実施体制の整備**  
農業協同組合等が設置した施設に対し、凍結精液の保管等に必要な器具・機材の導入を支援する。  
**ウ.海外凍結精液の実態調査及び輸入**  
海外における凍結精液の品質、供給体制等の実態を調査するとともに、優良種雄馬の凍結精液の輸入を行う。

#### (2) 多様な用途に応じた国産馬のモデル育成の実施

多様な用途に応じた国産馬の供給体制を確立するため、用途に応じた馬のモデル育成を実施するとともに、その育成技術の普及を図る。

### 3.馬事知識普及啓発事業

馬事知識普及公開セミナーを開催し、馬の生産等に係る新たな担い手を確保する。

馬生産技術向上推進事業は、馬生産技術者の高齢化や減少で生産・衛生管理の継承が困難になっていることから、生産体制の整備が必要になっている。そこで生産・衛生管理技術向上専門委員会を開催し検討を行い、技術向上研修会の開催、凍結精液による人工授精の普及を図るための講習会を開催し人工授精師を養成す

るほか、農協等の施設に対し凍結精液の保管等に必要の器具・機材の導入を支援する。また、海外凍結精液の実態調査を行うとともに優良種雄馬の凍結精液の輸入を行う。

馬事知識の普及公開セミナーを開催し、馬の生産にかかわる新たな担い手を確保する。

平成20年度 馬生産技術向上推進事業実施計画

区 分	事業の内容	実施時期等	前年度実績	
1.馬生産技術向上 推進委員会開催事業 (1)推進委員会の開催 (予算額:549千円)  (2)生産・衛生管理技術 向上専門委員会の開催 (予算額:1,641千円)	事業実施方針の検討及び馬産地における課題等の把握を行う。	平成20年9月予定	平成19年7月24日	
	馬の生産技術及び衛生管理技術の向上に関する検討を行う。	平成20年7月17日及び平成20年11月予定	平成19年9月13日 平成19年10月17日 平成19年11月30日 平成20年2月12日	
	2.馬生産技術向上指導事業 (1)生産及び衛生管理技術 向上研修会の開催 (予算額:506千円)  (2)人工授精の普及 ア.人工授精師の養成 (予算額:1,410千円)	生産現場における技術指導の向上を図るため、農協職員、獣医師等を対象とした生産・衛生管理技術向上研修会を開催する。	平成21年2月にJRA日高育成牧場で開催予定。 研修生は、3名	JRA日高育成牧場にて開催 受講生5名
		馬の人工授精師確保のため、家畜人工授精講習会を開催する。	平成20年7月22日～8月5日 (遠野市畜産振興公社にて開催) 受講者7名全員合格	熊本県畜産農業協同組合 阿蘇支所にて開催 受講者9名全員合格
	イ.人工授精実施体制 の整備 (予算額:1,500千円)	馬産地における人工授精の拠点として、農業協同組合等が設置した施設に対し、凍結精液の保管等に必要器具・器材の導入を支援する。	各年1箇所を整備	はまなす乗用馬生産組合(北海道野付郡別海町)に助成。 なお、はまなす乗用馬生産組合は、平成20年5月27日付けで北海道知事から家畜人工授精所開設許可書を取得した。
ウ.海外凍結精液の 実態調査及び輸入 (予算額:4,874千円)	海外における凍結精液の品質、供給体制等の実態を調査するとともに、優良種雄馬の凍結精液を輸入する。	平成20年11月～12月に実施する予定	輸入精液に係る証明書の発行者について、農林水産大臣の指定が出来なかったため、未実行に終わった。	
3.馬事知識普及啓発事業 (予算額:2,820千円)	馬事知識普及公開セミナーを開催し、馬の生産等に係る新たな担い手を確保する。	平成20年10月～11月に開催する予定。開催日・場所は、熊本県10月26日大津町、岩手県は11月7日滝沢村としている。  なお、北海道の馬事知識普及公開セミナーは、NPOとかち馬文化を支える会が主催し、帯広市(8月19日、10月11日)、札幌市(1月中旬)で開催する予定。	馬事知識普及公開セミナー用テキストを作成	

◆馬生産技術向上推進事業に係る生産・衛生管理技術向上専門委員会 委員

- |        |                         |
|--------|-------------------------|
| 荒川 由紀子 | ●独立行政法人家畜改良センター十勝牧場 馬係長 |
| 斉藤 哲   | ●十勝農業協同組合連合会 酪農畜産課長     |
| 桜屋敷 晴世 | ●青森県畜産農業協同組合連合会 事業部長    |
| 澤村 興隆  | ●地方競馬全国協会 監事            |
| 富手 研司  | ●社団法人岩手県畜産協会 家畜改良部長     |
| 林 勇    | ●社団法人熊本県畜産協会主任技師        |
| 山口 洋史  | ●社団法人日本馬術連盟 総務部長        |

生産・繁殖技術向上へ2事業推進

馬繁殖技術向上対策事業は馬精液の濃縮方法の開発、擬牝台活用による年間安定した採精を行うため、実務

者を海外へ派遣して研修させるほか、擬牝台による採精が可能な雄馬の調教をおこなう。

大家畜繁殖性向上対策事業実施計画

区 分	平成20年度	平成21年度	平成22年度
<p><b>1.馬繁殖技術向上対策委員会開催等事業</b></p> <p>(1)技術向上対策委員会の開催 馬精液濃縮方法の開発等事業の効率的な実施方策の検討及び具体的な改善方法の取りまとめ等を行う。</p> <p>(2)馬繁殖技術向上対策事業</p> <p>①馬精液濃縮開発 遠心分離方式に代わる新しい濃縮方法を検討し、開発を行う。</p> <p>②擬牝台の設置及び精液採取技術の習得・普及 ア.技術習得・研修 擬牝台による精液採取方法の調査及び精液採取技術の習得・研修を行う。</p> <p>イ.擬牝台の設置及び雄馬の調教 人工授精施設に擬牝台を設置するとともに、擬牝台による精液採取が行えるよう雄馬の調教を行う。</p> <p>ウ.雄馬の調教技術の普及 擬牝台による精液採取技術の習得を目的とした研修会を開催し、技術の普及を図る。</p>	<p>事業内容を推進するための委員会を1回開催する。 (平成20年8月26日開催)</p> <p>家畜改良センター十勝牧場の施設を借用(40日間)して、遠心分離に代わる濃縮方法を検討し、開発を行う。</p> <p>ドイツ国に2名を派遣し、擬牝台による精液採取方法の調査及び精液採取技術の習得・研修を行う。派遣時期は、10～11月予定。研修場所については、現在検討中</p> <p>○擬牝台の設置 設置場所は、社団法人遠野市畜産振興公社(遠野馬の里) ○雄馬の導入及び調教を行う。</p>	<p>事業内容を推進するための委員会を1回開催する。</p> <p>家畜改良センター十勝牧場の施設を借用(80日間)して、遠心分離に代わる濃縮方法を検討し、開発を行う。</p> <p>○雄馬の導入及び調教を行う。</p>	<p>事業内容を推進するための委員会を1回及び事業評価を検証するための委員会を1回開催する。</p> <p>家畜改良センター十勝牧場の施設を借用(40日間)して、遠心分離に代わる濃縮方法を検討し、開発を行う。</p> <p>○雄馬の調教を行う。</p> <p>国内馬生産関係者を対象として、擬牝台による精液採取技術の習得を目的とした研修会を開催する。 研修会は、社団法人遠野市畜産振興公社(遠野馬の里)にて行う。</p>

◆馬繁殖技術向上対策事業 委員

- 宮島 成郎 ●社団法人全国家畜産物衛生指導協会 専務理事
- 岡 明男 ●独立行政法人家畜改良センター十勝牧場 改良技術専門役
- 草野 信一 ●社団法人全国乗馬倶楽部振興協会 専務理事
- 千葉 祥一 ●社団法人遠野市畜産振興公社 馬事振興課長
- 鈴木 弘二 ●名取乗馬苑ベルシーサイドファーム 代表

# 馴致調教、セレクト上場に好感

## 北海道乗用馬せり市場・生産育成技術検討会

**平**成20年度北海道乗用馬せり市場（根釧乗用馬生産育成振興会主催）は9月17日、釧路市のホクレン釧路地区家畜市場で開かれた。今回は事前に現地研修会や能力査定を行ったこと、再せりを行ったことなどに好感、売却率、価格とも前年を上回った。せり市場後、(社)日本馬事協会主催で開かれた乗用馬生産育成技術検討会では、馴致調教の充実、生産者がせりに参加しなかったことなどは評価されたが、せり名簿への工夫、再せりの仕方などの改善、市場活性化のための宣伝強化、輸入凍結精液活用による生産体制の確立を望む声が出された。

せり市は約90人の売買参加者が見守るなか行われ、27頭上場、15頭が売買成立した（価格はいずれも税抜き）。最高160万円、最低30万円、平均75.9万円、総売上1139万円（前年、最高116万円、最低36.7万円、平均69.7万円、総売上906万円）となった。今回はせりするとき生産者（売主）が購買者と一緒に価格をせり上げていく手法を採用しなかった（生産者がせりに参加しなかった）のが大きな相違点だ。また大半の生産者は研修を受けたうえ、前日の朝から馬を会場に搬入して馴らしていたため、インドアを使った引き馬展示、フリージャンプが昨年以上にスムーズに行われたのが目立った。売却された馬はスポーツホース、レジャーホースを問わず馴致調教の完成度が高い馬がよく売れており、今後は生産者自身が高い馴致調教技術を身につける必要がある。

せり市場後の乗用馬生産育成技術検討会には日本

中央競馬会、(社)全国乗馬倶楽部振興

協会、(社)日本馬術連盟、全国乗用馬育成協会、各生産者団体などの関係者が集まり開かれた。全体としては売却率、販売価格とも前年を上回り、スムーズにいった、市場に活気が出てきたという評価だった。

その半面、せりが終わった後相対のようなかたちで価格を決めるような場面があり、再せりの仕方がやや不明朗一などの声があった。これに対して生産者側からは再せりは必ずしも生産者が希望したものではなかったもので、せりの最終価格が最低希望価格を下回り、本人取りとなるケースがあったとの説明があった。

改善を求める面としては、①馬の写真入りのせり名簿（パンフレット）の充実②生産面での交配、育成、調教など生産目的の明確化③市場活性化のための宣伝強化が出された。特にパンフレットは、掲載された馬の写真ポーズがバラバラで迫力がなかったため、セールスポイントを積極的に示し、フリージャンプの写真など購買意欲をかきたてるようなパンフレットにして欲しいという要望が出された。

生産者側からは競技馬生産に弱いこと、後継者不足などの悩みが出された。これに対し、ユーザー側は「馬の先進国は、その国の生産馬を優遇して活性化を図っている。生産現場もそれに応えて欲しい」と応える場面があった。日本馬事協会がドイツから凍結精液を輸入・活用する計画を進めていることに期待する声が出された。



セリ名簿No	馬名	性別 毛色	品 種 生年月日	所有者	販売価格 (消費税別)
1	ダルメシアン	セ ン 駁黒鹿毛	日本乗系種 平成18年5月31日	安 部 誠 典	330,000 円
3	コエデコンステレーション	雌 栗 駁 毛	アハルサ種 平成18年5月11日	小 倉 勇 三 郎	510,000 円
5	トウランドット	雌 鹿 毛	ウエストファーレン種 平成18年4月17日	釧路セントラル牧場	1,600,000 円
6	リゴレット	雌 芦 毛	日本スポーツホース種 平成18年5月24日	釧路セントラル牧場	1,510,000 円
7	フェアリー	雌 芦 毛	ウエストファーレン種 平成18年10月22日	釧路セントラル牧場	700,000 円
11	アイキュー	雄 栗 毛	日本乗系種 平成18年3月24日	釧路セントラル牧場	500,000 円
15	栄蘭	雌 栗 毛	日本スポーツホース種 平成18年5月18日	成 田 末 吉	1,360,000 円
16	栄華	雄 栗 毛	ハノーバー種 平成18年4月19日	成 田 末 吉	510,000 円
17	谷勇	セ ン 芦 毛	トロッター種 平成18年6月1日	成 田 末 吉	400,000 円
18	栄光	セ ン 鹿 毛	不 詳 平成16年5月5日	成 田 末 吉	300,000 円
21	05リヒーナ	雌 芦 毛	日本乗系種 平成17年5月21日	安 藤 泰 幸	610,000 円
23	ブラックアンチャン	雌 青 駁 毛	日本乗系種 平成18年5月10日	阿 部 睦 也	500,000 円
24	プロヴァンス	雄 鹿 毛	日本乗系種 平成18年5月20日	大 西 雅 信	1,250,000 円
25	ヤエノムテキ	雌 栗 毛	日本乗系種 平成18年8月1日	大 西 雅 信	460,000 円
26	二三月(フミツキ)	セ ン 栗 毛	日本乗系種 平成18年6月15日	川 崎 信 由	850,000 円

開催日：平成20年9月17日／開催場所：ホクレン釧路地区家畜市場



馬に乗って往診する山崎さん（兵庫県洲本市で）、絵本『うまにのったおいしゃさん』<sup>⑤</sup>



# 往診は 愛馬で

兵庫の獣医師・山崎さん

## 絵本のモデルに

兵庫県の淡路島内を馬に乗って往診する洲本市の獣医師、山崎博通さん（63）が絵本のモデルになった。愛馬のフランス（牝馬8歳）と肉牛農家を往診し、週末には地元の子どもたちに乗馬を教える山崎さんの姿を紹介。『うまにのったおいしゃさん』のタイトルで命の大切さを伝える。

絵本は、(株)学習研究社が発行した。4、5歳児向けの「どうぶつえほんライブラリー」(全10巻)の8巻目。全28頁で写真も掲載している。山崎さんを乗せたフランスが車と二階に道路を走り、牧場に着くと山崎さんが牛を診察する。山崎さんの提案で、地元の子どもたちと「モンスターストーカー」島内を一周するという内容だ。

「うまにのったおいしゃさん」  
子どもを乗せても決して落さないという。  
山崎さんは「馬に乗って畜産を守り、子どもに命の尊さを伝えたい」と話している。

子どもは「カワポニー」にあこがれていた山崎さんは8年前から、自宅の裏庭で馬を飼育し、馬に乗って農家を巡回している。週1回ほど、20分の道のりを回る。フランスは、頭目の馬で、人が集まる場所へ自ら近

動物を通して、それを幼児に伝える」と狙いを説明する。

(日本農業新聞提供)

## サル「トンガ」 往診のお供

8月末、山崎博通さんからお手紙を頂いた。

淡路市内で捕まった野生の日本ザルが持ち込まれた。そのうち愛馬フランスのたてがみにつかまり、往診する山崎さんと同行するようになったという。サルの名前は「トンガ」(雄)。

「07年10月、私宅近くに初めてのことで、1頭のサルが出現しました。少しずつ北進を続け、15km離れた所で1ヶ月間ほど犬と遊んでいたということです。12月7日にコンテナに伏せられて捕獲、私宅へ持ち込まれました。

サルははじめ馬を怖がっていましたが、そのうち馴れ、独りで馬の背に飛び乗るようになりました。往診に行くとき鞍の前に座って、たてがみをつかんでいます。何kmでも走行できます」



# 与那国馬で エンデュランスに 挑戦して

## 坂下 由衣

平成20年5月9～11日に行われた『第9回八ヶ岳ホーストレッキング&エンデュランス馬術大会』に参加しました。

きっかけは去年の6月、照月湖CEI☆☆☆160kmエンデュランス馬術大会でした。世界騎馬文化研究家の清水唯弘氏の紹介でお手伝いのボランティアをさせていただき、そこで私たち名古屋大学和式馬術部は初めてエンデュランスという競技に出会ったのです。

私たち和式馬術部の活動趣旨は、和種馬の保存・活用、日本古来の馬文化の継承・発展の一助となること、それを学校体育の一環として容易に取り組めるようにすることを目標としています。エンデュランスには、十分にその可能性を感じました。日本の風土に適応し、その土地の文化を担ってきた日本の在来馬たちが、彼らのフィールドで、彼ら本来の走りや動きを存分に発揮できる場はなかなかありません。私たちはその後も8、9、10月にあった定例会へと足を運びました。

そして年末、与那国馬ふれあい広場の馬たちが20kmのトレッキングに挑戦するという話を聞き、参加させていただくことになりました。レースには3頭の与那国馬が出場しましたが、選ばれたライダーは私を含め、体高120cmという小柄な与那国馬に合わせた小柄な女性ばかりが3人集まり、レースはこの3頭のグループ走行で行いました。

与那国馬でのエンデュランス競技出場は、前代未聞です。エンデュランス競技には、一般的に心拍数の低い馬が適していると言われていますが、与那国馬もそれに適した心拍だということが分かったための試みでした。初



与那国馬で初出場し完走を果たして

めてといえば馬に限らず、大学馬術部としての出場も初めてです。馬もライダーもエンデュランスという競技に対して全くの初心者です。わたしは、世界初の試みに参加するというプレッシャーを抱えながら練習に臨みました。

トレーニングを始めてすぐ、与那国馬の“タフさ”に感心しました。在来馬は丈夫だから小さくても20kmという距離をきつと走りきってくれるだろうと思っていましたが、初めて与那国馬のきゃしゃな体を見たときは、心のどこかに疑うところもあったのです。しかし、初めて心拍数を計測しながら走り終わったとき、ゴールして5分後には心拍が元通りになるのを見て、改めて彼らの強さを感じました。

大会当日、馬との信頼関係や自分の技術にまだまだ不安がある上に、コースは前日からの雨で山道の足場は最悪でした。色々な事故が頭をよぎり、とても緊張してスタートを切りましたが、いったんコースに入ると自然の中を駆ける気持ちよさに緊張が解けると同時に、どんなに足場の悪い道でもその細い足がすっぽり泥に埋まりながらも一生懸命走り続ける与那国馬たちの姿に、自らが励まされました。馬のことを気遣いながら走れるのかどうか、不安を抱いてのスタートでしたが、気がつけば、できるだけ走りやすいところを通ろう、ピードは出しすぎているか、呼吸はおかしくないかなど、わからないなりに常に馬のことを気にかけていました。

そしてラストスパート、最後に出した渾身の爆走劇はさわやかでした。しかし途中で道を間違えたため、ゴールは制限時間ギリギリだったのです。あと10分というところで、心拍の安定を考えて駆けるのをやめるか、心拍はきつと



下がると信じて時間に間に合うよう駆け抜けるかの二者択一になってしまいましたが、どうせダメならと馬たちを信じて後者を選択しました。馬たちには大変な思いをさせたとありますが、20km近く走ってなお、さらに走れる力が残っていたのだと、ここでも与那国馬の強さを感じました。

レースが終わった瞬間、私は思わずレインに抱きつきました。馬との信頼関係ができたかどうかはまだわかりませんが、ただ一緒に完走できた、頑張れたということがうれしくて、そんな気持ちを味わわせてくれたレインに感謝しました。

練習から本番を通して、馬の気持ちになって考えるということ、自分が先に立って馬をやる気にさせるということ、それができていないことを何度も感じさせられました。その度に、一緒に走った二人のライダーに学んだところが大きかったと思います。その他たくさんの方にお世話になりました。エンデュランスという競技は、たくさんの人たちが協力し合ってレースを作りあげ、結果を生み出すことによってライダーと馬とそれを取り巻く周りの人々との良い関係が築かれるところが魅力だと思いました。

また、エンデュランスに在来馬で出場することの意義ですが、与那国馬たちの小ささは、実際レース中にも役立っていたと思います。体が小さいため他の馬が通れな



いような細い道を抜けることができ、悪路や障害物を避けやすいことなど、ささいなことですが、これも在来馬のひとつの利点であり、活用に際してはそういう特徴をアピールしていけたら良いのではないかと思います。

世界初の試みという貴重な経験をさせていただき、本当にたくさんのごことを学びました。まだまだ勉強不足ですがこの経験を糧に、エンデュランスの良さを取り入れ、在来馬の持ち味を取り入れた活用の方法を考え、当和式馬術部の活動に生かしていけたらと思います。

今大会出場へと導いてくださった方々、応援して下さった方々、本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

(さかした・ゆい 名古屋大学和式馬術部主将)

エンデュランストレーニングライド 20 km

(規定時間 1時間30分〜3時間)

順位	選手名	参加馬名	年齢	性別	種類	所属団体	タイム	心拍
完走	伊藤 高一	オタノシケ	12	セン	トロッター	八ヶ岳ロングライディング	1:58:51	48
完走	高鳥 綾子	ユキツバキ	7	セン	半血種	八ヶ岳ロングライディング	1:58:56	48
完走	森田 正弘	ホープ	16	セン	トロッター	八王子乗馬倶楽部	2:03:15	52
完走	佐藤 久恵	クレールプリン	13	牝	半血種	アラビアンホースクラブ	2:03:16	48
完走	鈴木 緑	プリンセスミルク	14	牝	アングロアラブ	サニーフィールド	2:16:28	40
完走	新妻 岳	ハリマ	14	セン	半血種	クレイン金沢	2:19:56	48
完走	春田 真人	レイ・ロング	7	セン	サラブレッド	クレイン金沢	2:20:05	48
完走	西野 彰記	ボスキー	20	セン	サラブレッド	八王子乗馬倶楽部	2:21:48	44
完走	三木 敬裕	リジュール	11	セン	ポニー	八王子乗馬倶楽部	2:21:53	52
完走	倉科 啓子	イーネン	9	牝	半血種	八王子乗馬倶楽部	2:22:00	40
完走	加藤 逸郎	ちよろ松	5	牡	サラブレッド	湯の山乗馬クラブ	2:46:48	44
完走	萱野 志保	エステル	8	牝	サラブレッド	湯の山乗馬クラブ	2:46:52	44
完走	嶋田 結方	テル	7	牡	与那国馬	与那国馬ふれあい	2:55:22	52
完走	福森 享子	ラオ	6	セン	与那国馬	与那国馬ふれあい	2:55:23	52
完走	坂下 由衣	レイン	5	牡	与那国馬	与那国馬ふれあい	2:55:26	48
棄権	小沢 由美子	アロー	11	セン	サラブレッド	シエナ乗馬	2:03:52	54
棄権	横井 久	フェンリル	6	セン	サラブレッド	湯の山乗馬クラブ		
棄権	山田 智之	ノースココ	3	牝	サラブレッド	ノースランドライディング		
棄権	吉田 尚司					八王子乗馬倶楽部		

# 北海道開拓の村で どさんこによる駄載実演

北海道和種馬保存協会は、8月17日、日曜日、快晴の空のもと北海道開拓の村（札幌市厚別区）で北海道和種馬（以下「どさんこ」）伝統の技～だんづけ～を披露しました。午前の部、午後の部2回の実演と体験乗馬です。この日は、札幌では、お盆の最終日、子供達は夏休みの最終の日曜日です。北京オリンピック開催中という中、大勢の皆さんに見ていただくことができました。共進会などどちらかという馬好きの皆さんが集まるイベントではこれまでも実演をしてきましたが、もう一步対象を広げて、一般の市民の皆さんにもどさんことその文化を知ってもらおうという趣旨から北海道開拓の村の協力を得て今回の開催となりました。

「だんづけ」とは馬の背中に荷物を載せ、輸送することを表している北海道道南地方の方言です。業界用語ではありますが、一般的には駄載といわれます。北海道開拓の村は、北海道の開拓時代に現存した建物等を移転

保存し公開している施設、旧札幌駅舎を正面玄関としています。入場するとすぐ実際にどさんこが引っ張る鉄道馬車が走っています。終点にはかつての<sup>えきていしよ</sup>駅通所があり、当時の交通の一端を展示しています。まさに～伝統の技～を披露するのに適した施設です。

駄載には、人類が馬とつきあい始めてからの長い歴史があり、馬の改良、道具の工夫、技の伝承が続けられてきました。しかし、今、わが国で実用ベースの技が残されているのは、函館だけだろうと思います。20世紀後半から石油エネルギー全盛時代にはいるとともに輸送手段は、主として車両に変わりました。山間部まで道路が舗装される時代となり、馬の仕事はなくなりました。北海道の開拓にはどさんこの活躍があったことが多くの市民から忘れられ



鉄道馬車(左)の横を行く「だんづけ」の馬の列がちです。

このようなことから貴重な伝統技術やどさんこの存在、新たな使い道を考えるため、一般の市民向けに現役のどさんこと実際の仕事の再現をしてみました。函館だんづけ保存会土谷進会長指導のもとに、この技を継承したいと修行中の古本祥二さんが実演、北海道和種馬保存協会宮上博道南支部長が説明にあたったほか、馬具など資料の展示、昼休みには出演した馬による体験乗馬でどさんこに親しんでもらいました。体験乗馬には写真撮影即仕上げのサービス付きとあって大人気でした。

どさんこは、やや小柄な体格と明せきな頭脳、強靱な体力を持っており、ホーストレッキング、障害者乗馬、流鏑馬、パートナーホースなど乗用を中心としてこれからもいろいろな用途が考えられます。また、環境にも優しい馬です。一番の特徴である駄載能力ももっと活用して社会貢献が出来る分野が有るのではないか、例えば災害時の車両運搬不能地域への応急支援物資運搬などが考えられます。こういったシステムも一考の価値、試行の価値が有るのではないのでしょうか。参観のお客さんもうなずいていました。

(北海道和種馬保存協会事務局長・白井興一)



会場で馬具などの説明を行う宮上博道南支部長(右)

# 上野動物園の在来馬は3馬種に

## —新たに野間馬「えりか号」来園—

東京・上野の上野動物園(小宮輝之園長)は、昨年秋から日本在来馬の保護・普及に取り組んでいる。昨年秋、木曾馬、トカラ馬の飼育に乗り出したが平成20年4月3日に愛媛県今治市の野間馬ハイランドから野間馬「えりか号」が来園したのを機に20日、「子ども動物園開園60周年・野間馬贈呈式」=写真=を行い、飼育する在来馬は3種類に増えた。

今治市から贈られた野間馬は雌、13歳、芦毛の「えりか号」。体高97cmと小型で愛くるしい表情に贈呈式に参加された秋篠宮家の長女、眞子さま(学習院女子高等科2年)も笑顔を見せた。野間馬の地元からは越智忍今治市長、大澤譲児保存会会長、大澤勝幸野間馬ハイランド園長らが出席した。日本一小型の野間馬を見ようと見物客や報道陣ら200人以上が集まった。



# 映画「三本木農業高校、馬術部」

## 10月4日、東映系で全国公開

青森県十和田市の県立三本木農業高校の馬術部に所属する少女と盲目の雌のサラブレッド(馬場馬術用馬)との交流を描く映画「三本木農業高校、馬術部」(佐々部清監督)は10月4日、全国の東映系で全国公開が始まる。物語の舞台になった青森県では8月30日に先行公開となり生徒や卒業生、関係者を喜ばせた。

ロケ地の十和田市はかつて軍馬補充部が置かれていただけに、十和田湖だけでなく駒街道など馬にまつわる名所が多く、映画の果たす役割は大きい。映画は実話をもとに十和田の四季を追いながら撮影が進められ、現役の高校生や地元の人たちがエキストラとして出演している。



# 人間ばん馬大集合

## 10月19日、帯広でチャンピオンシップ『世界大会』

世界で唯一のばんえい競馬を応援しよう―帯広市のばん馬と共に地域振興をはかる会(川田章博会長)は、10月19日午前10時から帯広競馬場で「2008ワールド人間ばん馬チャンピオンシップ『世界大会』」を開く。

これまで十勝管内市町村対抗『とかち大会』を開いてきたが、今年は「100万円を賭けた世界大会」と銘打ち、6人1チームによる、ばんえい馬に劣らぬ熱戦をPRしようというもの。すでに国内はもとよりフランスなど海外にも参加を呼びかけている。

人間ばん馬世界大会にあわせて、十勝の農産品・海産品の収穫祭・特産品まつり、ドサンコ流蹄馬、ばんえい競馬写真展、子ども縁日も行われる。



●前日の18日は同所で人間ばん馬レース「とかち大会」を開き、景気づける。入場無料。

## 「馬事協会便り」発行について

日本馬事協会は平成20年3月末まで、馬に関する知識や馬事に関する情報提供の目的で雑誌「ホースメイト」を発行してきました。しかし、独自に継続発行が困難なために休刊いたしました。

そこで当協会の団体会員、個人会員の皆様を始めご支援いただいている方々へ、活動近況のご報告を兼ねて、機関誌「馬事協会便り」をお届けいたします。10月、3月と年2回発行を予定しています。ご寄稿、情報提供などお待ちしております。

### 馬事協会便り

2008年10月10日発行  
発行者/倉澤 景晴  
発行所/社団法人 日本馬事協会  
TEL03-3297-5626  
<http://www.bajikyo.or.jp>  
E-mail:jeaa@bk9.so-net.ne.jp  
印刷/日本印刷株式会社

# 昭和五十三戊午年諸国郷土玩具馬盡双六



すごろく(日本)  
馬の玩具のすごろく  
42.7×60.5cm

(中野市経済部商工観光課蔵:山岸安信馬コレクションから)

## 社団法人 日本馬事協会

〒104-0033

東京都中央区新川2-6-16(馬事畜産会館7F)

TEL.03-3297-5626 FAX.03-3297-5628

URL <http://www.bajikyo.or.jp>

E-mail [jeaa@bk9.so-net.ne.jp](mailto:jeaa@bk9.so-net.ne.jp)